令和６年６月１５日（土）遺跡見学会資料

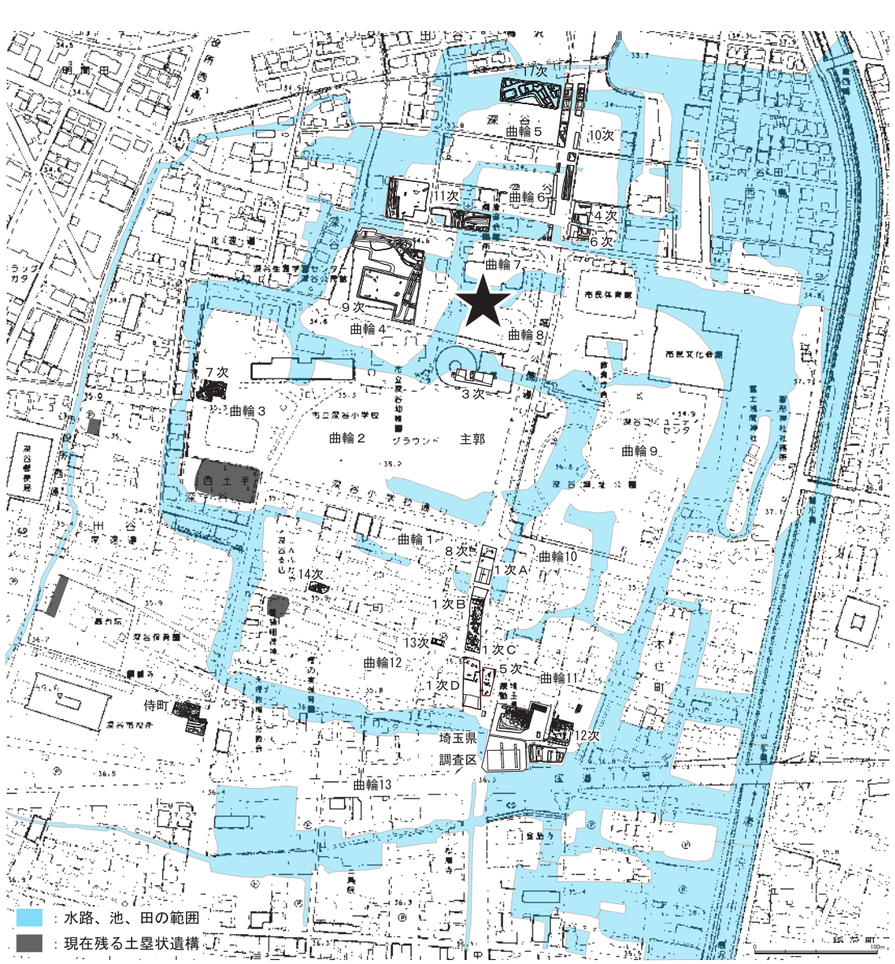
深谷城跡（第22次）発掘調査

〔調査期間〕令和６年２月～９月予定
〔調査面積〕約 2,400 ㎡
〔調査機関〕深谷市教育委員会

はじめに

深谷城を治めた深谷上杉氏は、関東管領山内上杉氏の一族です。深谷上杉氏五代の房憲は古河公方の襲来に備え、康正２年（1456）、庁鼻和城から、より要害の深谷城を築きました。

この城は、低湿地を臨む台地の先端に幾重にも堀を巡らし、川の水を引き入れ、高い土塁により堅固に構築されていました。面積は約３０ヘクタール、木瓜の花や実に似ていることから木瓜城とも呼ばれていました。現在の深谷小学校周辺が主郭と考えられます。今回の調査区周辺は、深谷市深谷字越中曲輪に位置し、主郭より連なる曲輪（防御施設に守られた内部の平らな場所）とそれを隔てる堀跡にあたると考えられます。



★：今回の調査地

深谷城跡推定図 S＝1／5000

深谷上杉氏関係略年表

1456 年　上杉房憲が深谷城を取り立てる。
　　古河公方足利成氏、深谷城を攻めるため軍を差し向け岡部ヶ原で合戦。
1478 年　足利成氏、関東管領上杉顕定と和睦。
1487 年　山内・扇谷両上杉の抗争が始まる。
1505 年　山内上杉顕定、扇谷上杉朝良和睦する。
1546 年　河越夜戦で、古河公方足利晴氏、関東管領山内上杉憲政、扇谷上杉朝良は、北条氏康に敗れ、朝定は敗死し扇谷上杉氏は滅亡。
1552 年　関東管領上杉憲政、北条氏康に攻められ平井城を出奔し、越後守護代長尾景虎を頼る。深谷城主上杉憲賢、北条氏に降る。
1561 年　長尾景虎、小田原城の北条氏を攻め、深谷城主上杉憲盛も従う。
　　長尾景虎、上杉憲政から関東管領職を譲られる。
1565 年　上杉憲盛、北条方につく。
1567 年　上杉謙信、深谷近辺を攻め放火する。
1569 年　相越同盟により上杉憲盛、上杉謙信に帰属する。
1570 年　武田信玄、上野国に侵入、深谷にも侵入する。
1572 年　北条氏政、武田信玄が和睦し、信玄が深谷大沼付近に火を放つ。
1573 年　上杉憲盛、北条氏政につき、深谷城は氏政の弟氏邦の居城鉢形城の傘下となる。
1574 年　上杉謙信、深谷城を攻め、その城下に火を放つ。
1590 年　豊臣秀吉の小田原攻めが始まり、深谷城は前田利家、浅野長政の軍に降る。
　　徳川家康の家臣、松平康直が一万石で深谷城に入る。
　　（その後、酒井忠勝が城主になるまで 3 人の城主が入る）
1626 年　深谷城主酒井忠勝、忍に移封され深谷城は廃城となる。
1644 年　深谷城が取り壊される。
1692 年　深谷城跡の開墾が許される。

1号堀跡遺物出土状況（漆器など）

4号堀跡遺物出土状況（下駄）

確認された主な遺構

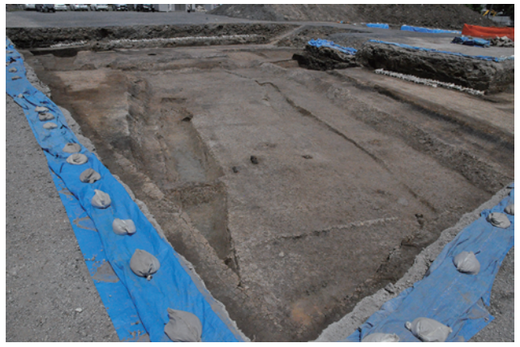
第 22 次調査区は南と北に曲輪、中央がそれを隔てる堀にあたります。城の推定図から、主郭から北へ連なる曲輪とそれを隔てる堀と考えられます。堀の構造は障子堀という堀底に障壁状の障害物などを設けた特殊な構造です。浅い部分と方形や溝状に深い部分とを組み合わせ、底面を一部掘り残すなど非常に複雑な造りとなっています。ここに水を引き込むことで、堀底の状況が不明瞭であれば、落とし穴のような効果もあったと考えられます。土壌は粘土質で、水を含むと滑りやすく、足をとられると身動きができなかったでしょう。堀を掘削した土は土塁を造るために使われたと考えられますが、今回の調査では土塁の痕跡は確認されませんでした。曲輪内からは井戸跡が見つかっています。堀からは、土器・木製品・石造物などが出土しました。

A 区全景

A 区1号堀跡

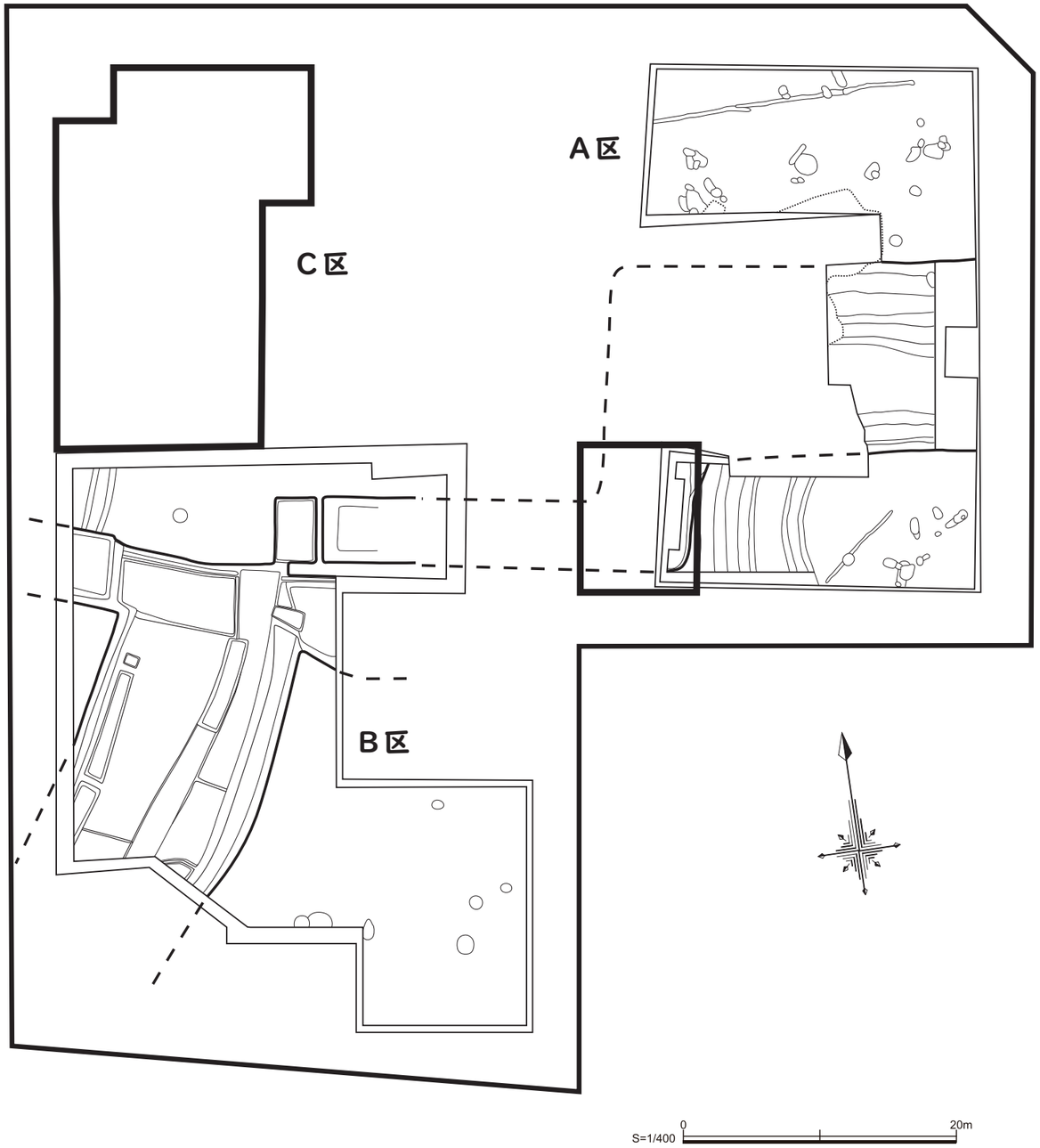
A・C 区2号堀跡

A 区3堀跡



B 区4号堀跡

B 区5号堀跡



第 22 次調査区の遺構測量略図